



うおぬま通信

第11回

保存版

[発行]新潟県 2023年3月 第11回「うおぬま・米ねっと」10年目を迎え現状と課題、これからの展望

魚沼地域
医療の輪
地域全体でひとつの病院

うおぬま・米ねっとに
加入しましょう!

「うおぬま・米ねっと」に加入すると…

- 薬や検査情報の共有により正確な診断に役立ちます
- 急変時、救急搬送までの時間の短縮につながっています

■ 加入のお問い合わせはこちら
NPO法人魚沼地域医療連携ネットワーク協議会
TEL 025-788-0485

- 魚沼地域(十日町市・魚沼市・南魚沼市・湯沢町・津南町)の病院、診療所、調剤薬局や介護施設などをネットワークで結びます。
- 患者さんの診療情報、検査結果、お薬の情報など、参加機関同士で共有し診療、緊急搬送時にスピーディに対応。

「うおぬま・米ねっと」10年目を迎え 現状と課題、これからの展望

～魚沼地域医療を担う3病院の先生方にお話しをお聞きしました～



魚沼基幹病院長
特定非営利活動法人
魚沼地域医療連携ネット
ワーク協議会 理事長
鈴木 栄一



十日町病院長
特定非営利活動法人
魚沼地域医療連携ネット
ワーク協議会 理事
吉嶺 文俊



中島脳外科内科医院長
特定非営利活動法人
魚沼地域医療連携ネット
ワーク協議会 理事
中島 拓



魚沼地域に「米ねっと」が導入された経緯は

鈴木 2015年の地域医療再編の以前は、魚沼地域の医療資源が不足し、三次救急・高度医療を他圏域に依存する状況にありました。各医療機関の役割分担や連携を進め、「地域全体でひとつの病院」としての医療提供体制をつくるために、患者さんの診療情報を共有するしくみとして、地域医療連携ネットワークが構築されました。2014年から運用を開始し、2019年に

は介護事業所も参加した地域包括ケアシステムの一翼を担うシステムとしてリニューアルし、来年度は10年目を迎えます。

「米ねっと」はどのようなシステムですか

鈴木 魚沼圏域の病院、診療所、薬局、介護事業所、消防署などをネットワークで結び、登録されている患者さんの診療情報や介護情報を共有するしくみです。診療情報の共有が円滑になることで、早期の診断・

治療につながっており、また介護との連携が進むことで、地域包括ケアシステムを構築するのに有益なシステムと考えております。

加入者数、参加施設数は

鈴木 「米ねっと」の加入者数は、年々増加し、2023年1月末現在の加入者数は41,143人で、圏域人口の27.0%になります。県内の地域医療連携ネットワークシステムの中では、最も加入者が多く、特に65歳以上の高齢者は約半数の方が

加入しています。

参加施設は、医療機関、介護事業所、自治体などの合計289施設が参加しています。

十日町病院ではどのような取組をされていますか

吉嶺 職員へしくみの説明からはじめ、院内の周知と加入促進を盛り上げるまでに約7年かかりました。現在は、推進部会を作り、職種の異なる21名で、転院時の

加入促進、他施設との連携、住民啓発などを行っています。数字目標を掲げて取り組み、患者さんが退院する時の加入率は2023年1月時点で85%（1年前は50%）までに伸びました。

鈴木 魚沼基幹病院では、患者サポートセンターを通ってくる方には米ねっとの説明ができるのですが、実際は緊急入院が圧倒的に多く、なかなか説明ができない状況です。

新年度には、特命の米ねっと担当を置き、病棟の看護師含めみんなで協力して加入率を上げるのを目標にしようと思っています。

「米ねっと」をどんな形で活用していますか

中島 中島脳外科内科医院では、一日に何件も利用しています。特に、画像や心電図は過去の検査結果と比較することで、患者さんの症状の変化や原因が一目で分かることが頻繁にあります。

他院にもかかっている患者さんが自分の病名を理解されていないときに、調べてみると重度の糖尿病と分かることなどは決して珍しくありません。

重複検査を避けることで患者さんの負担軽減、医療費の軽減になる利点もあります。

地域住民の皆さんにとってどんなメリットがありますか

中島 一言で言えば「質の高い医療」を目指すということです。急変時や、病院への紹介・逆紹介時に詳しい診療情報を得られる点が正確な診断を目指す上で役立ちます。

また、魚沼市では救急搬送の時間が劇

的に短縮したなど、効果がみられています。現場で、救急隊員がこれまでご家族に確認していた、搬送者の持病や薬、かかりつけ医などの情報を米ねっとで確認することで、搬送までの時間の短縮につながっています。



さらに、災害への備えにもなります。中越地震では、ある病院でサーバが壊れ、電子カルテがダメになった事例がありました。米ねっとはクラウド上に高度なセキュリティをかけて保存し、バックアップを取ることで、地域住民の皆さんの健康データを安心して保管するしくみになっています。

かかりつけ薬局とはどんな形で連携がされていますか

吉嶺 十日町病院では病棟毎に担当薬剤師が配置されていますが、入院時の患者さんのお薬手帳などでかかりつけ薬局の有無を調べたところ、約6割で確認され、そのうち既に約半数の方において米ねっとで紐付けされていました。

退院時には、持参薬の情報や入院時に処方された内容や次回の受診日などの情報提供を院外薬局など関係機関に文書提供を行い、お互いに診療報酬上の加算も得られるよう工夫しています。

特にがんの化学療法をされている方は、

注射薬も含めた薬剤情報が膨大で、日々変化するため、かなり役立っています。外来処方の際も、事前に検査データを見ることが、患者さんの来店時にすぐに適切なお薬を出せるようになりました。

中島 10年前の立ち上げ当時、ここまで薬剤師さんを組み込んだのは全国の他のシステムにも例がなく、画期的なものでした。魚沼圏域の薬剤師さんの努力と先生方のお声かけによるものです。

遠隔診療が在宅医療を変える可能性は

中島 豪雪地である魚沼圏域では、寝たきりの患者さんはもちろん、交通の足がない患者さんには米ねっとは大きな助けとなります。



現在は、訪問看護師が文書と画像を遠方の医師に送り、医師が診断や助言を行っています。持ち運びが容易な医療機器の普及も進み、将来的にはより高度な遠隔診療が可能になると思います。

在宅医療において一番難しいのが、容体変化時に、病院への緊急搬送が必要かを、的確に判断することです。現場に医師がいない中、訪問看護師さんに全ての判断を任せるのも大きな負担となります。そこで医者と訪問看護師、他の方も巻き込んで対応できる米ねっとのしくみが非常

に役に立っています。

「米ねっと」のこれからの展望は

吉嶺 「新・三種の神器」、すなわち母子健康手帳とマイナンバーカードとうおぬま米ねっとカードを誕生祝いにプレゼントするのはいかがでしょうか。「(母親の)おなかの中からお墓の中まで」、すなわち高齢者から若い世代まで全世代の住民が米ねっとを活用できる社会になればいいと思っています。

中島 住民健診のデータとあわせて、住民の健康管理に役立つシステムとなればと思います。もうひとつは、人生の終末を迎えるにあたって住民が望む医療やケアについての情報共有です。

また、米ねっとに蓄積された住民データを使ってこの地域の特性を解析し、原因究明と予防や早期治療に役立てるという面でも期待しています。

鈴木 米ねっとを更に発展させるために、ぜひ皆さんに加入していただき、医療資源の少ない魚沼圏域で良い医療が受けられるしくみとして活用されることを期待しています。



NPO法人
魚沼地域医療連携ネットワーク協議会
TEL 025-788-0485 (平日8時30分~17時)
HP: <http://uonuma-mynet.org>
家族全員での加入が
いざという時の安全安心につながります

魚沼基幹病院インフォメーション

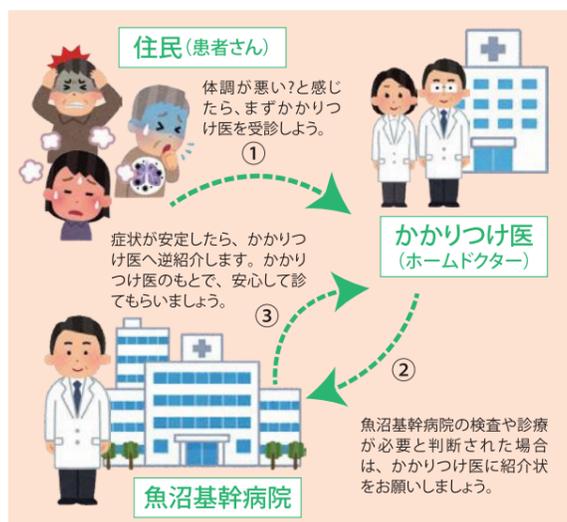
身近な「かかりつけ医」を持ちましょう! 紹介受診にご理解とご協力をお願いします

「かかりつけ医」とは、身近な地域の中で、患者さんやご家族の日常的な診療(風邪等の初期治療、慢性疾患の対応等)や健康管理を行う診療所・クリニック・病院等をいいます。

魚沼基幹病院は『紹介型』の病院です。まずは地域の診療所やクリニックなどで『かかりつけ医(ホームドクター)』を持ち、必要な場合は紹介状を持参して当院受診をお願いいたします。

※当院は紹介型・救急指定病院であり、病状が不安定であるなど、特別な場合を除いてかかりつけ医にはなれません。当院の治療により症状が安定したらかかりつけ医へ逆紹介します。

当院では、医療連携や紹介受診など国の進める政策に積極的に取り組み、地域医療の充実に貢献していきますので、ご理解とご協力をお願いします。



ご家族にもおすすめください! 笑顔で人と関わることが大好きな看護職員を求めています

★病院見学で気軽に当院のスタッフとお話ませんか。

随時受け付けていますので「もっと知りたい」と思ったら、いつでもお申込みください。病棟を見学したり、看護部長とお話いただくことで、病院の雰囲気を実感していただけるのではないかと思います。見学をして当院に魅力を感じていただき、採用面接を希望される方もたくさんいらっしゃいます。病院まで足を運ぶのが難しい方には、オンライン相談会も月に2回開催しています。看護職員が個別に対応し疑問にお答えするとともに、病院スタッフの温かい雰囲気をお届けできればと考えております。お申し込みは病院ホームページから。
※対象は既卒看護職員です。

★インスタから情報発信中!

看護師確保委員をはじめとする広報PRチームメンバーが主体となり、魚沼基幹病院の魅力を発信しています。採用試験や院内研修の情報はもちろん、魚沼の美しい景色や美味しい食べ物、休日を楽しむ職員の情報など楽しみながらご覧ください。



魚沼基幹病院インスタ部(UKB)



魚沼基幹病院看護部特設サイトHP